

平成28年度北斗市立小・中学校 全国学力・学習状況調査結果報告について

この調査は、文部科学省が幅広く、全国の児童生徒の学力や学習状況等を把握することなどを目的として実施していますが、実施教科が4教科のみであることや学習指導要領の全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であること、学校における教育活動の一側面に過ぎないことに留意することが必要です。この結果だけで、学校や児童・生徒の評価をしないでいただきたいと思います。

北斗市教育委員会では、全国学力・学習状況調査の結果を例年のように大規模校についてのみ公表することといたしました。
(小・中規模校については、個人が特定されるおそれがあるため、公表いたしません。)

北斗市教育委員会

調査の概要

I 調査目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国の児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るために、調査を行います。また、各学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるために行っています。

II 調査対象

国・公・私立学校の小学校6年生、中学校3年生の原則として全児童生徒を対象としています。

III 教科に関する調査

○国語A 算数・数学A(主として「知識」に関する問題)

身に付けておかなければ後の学年の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようにすることが望ましい知識・技能などを調査します。

○国語B 算数・数学B(主として「活用」に関する問題)

知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力などにかかわる内容を調査します。

IV 生活習慣や学習習慣に関する質問紙調査

○児童生徒に対する調査

学習意欲、学習方法、学習環境や生活面に関する調査をします。

○学校に対する調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査をします。

V 下位層について

全国の結果で下位およそ25%と同じ正答数の範囲に属する児童生徒のことをいいます。下位層の割合は、低いほどいいこととなります。

小学校

教科に関する調査

《平均正答率》

北斗市内小学校 各教科の平均正答率(%) 6年生446名

	国語A	国語B	算数A	算数B	4教科計
北斗市	71.7	55.0	79.2	45.4	251.3
全道	71.0	56.0	75.3	44.5	246.8
全国	72.9	57.8	77.6	47.2	255.5
全道差	0.7	-1.0	3.9	0.9	4.5
全国差	-1.2	-2.8	1.6	-1.8	-4.2

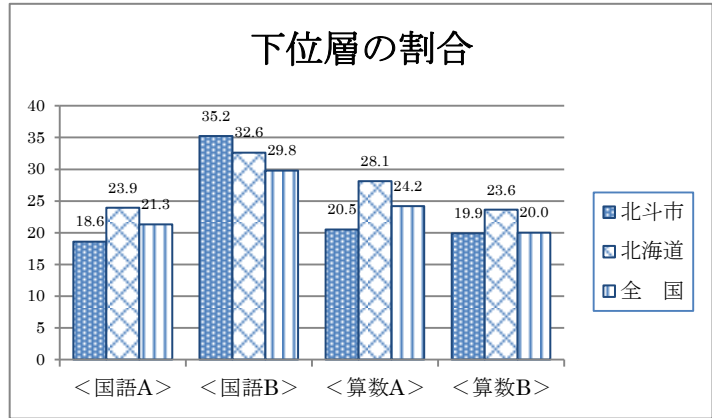
○北斗市では、必要最低限の学力を全ての子どもたちに身につけさせるため、下位層の底上げを重点とし、その結果として小・中学校ともに、各教科の平均正答率が全国以上になることを目指しています。小学校では、算数Aで全国を上回っています。国語A、算数Bについては、全国を下回っていますが全道を上回っています。国語Bについては、全国・全道を下回っており、市が設定した目標に届きませんでした。

○国語A、国語Bについては、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の全ての領域で全国を下回っています。

○算数Aでは、「数と計算」、「量と測定」が全国を上回っています。「図形」、「数量関係」が全国を下回っています。

○算数Bでは、「量と測定」、「図形」が全国を上回っています。「数と計算」と「数量関係」が全国を下回っています。

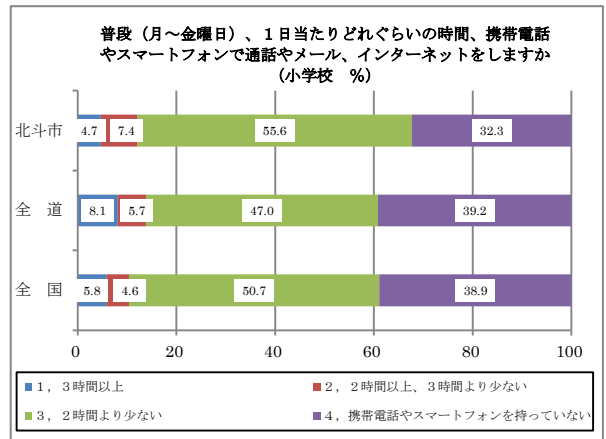
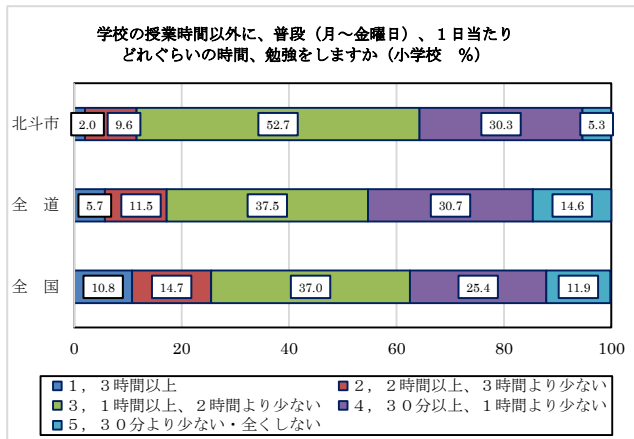
《下位層の状況》



○国語Aと算数Aで下位層の割合が全国を下回っています。算数Bで全国とほぼ同じ割合ですが国語Bで下位層の割合が全道・全国を上回っています。

《無解答率の状況》

○全教科54設問中、7問(国語Aで3問、算数Bで4問)で全国の無解答率を上回っていますが、その他の全ての設問で無解答率が全国と同じか全国を下回っています。児童は、粘り強く問題に取り組んでいます。



児童に対する質問紙調査

○普段(月～金)、携帯電話やスマートフォンで、通話やメール、インターネットを一日あたり二時間より少ない児童の割合が全道・全国より上回っています。三時間以上の割合は、昨年を下回りました。(昨年は、7.2%、今年度は、4.7%です。)改善傾向にあります。スマートフォン・携帯電話の所持率が全道・全国を上回っています。

○平日に一日あたり一時間以上勉強する児童の割合が全道・全国を上回っています。

小学校4校の平均正答率(%)

	国語A	国語B	算数A	算数B
A	74.5	59.7	80.1	49.0
B	72.0	57.5	78.6	44.3
C	67.7	51.4	75.9	45.7
D	71.6	52.8	80.7	44.1

学力向上の取組

小学校A校

○全国学力・学習状況調査の結果から全教職員で課題を共有しています。

○「書くこと」の向上を図るための強調週間を設定し、学習の評価を工夫しています。

○「学習規律」の徹底を図り、学習活動の「課題」を明確に示し、「振り返り」を位置付けています。

小学校B校

○月ごとに教職員一人一人が学校改善プランに沿って達成状況の評価し、「目標を達成したもの」、「継続すべきもの」、「新たな課題」の3点から計画の見直しを行っています。

○家庭訪問や懇談会で生活リズムチェックシートを活用し、子どもの生活リズムについて連携を図っています。

○朝学習でチャレンジテストを活用して学び直しの充実を図っています。

小学校C校

○五・六年生を対象に、全国学力・学習状況調査を複数回実施する他、国語の苦手分野を重点的に指導しています。

○中学校区で統一した学習規律や生活の決まりを活用するなど、発達段階に応じて「家庭学習のすすめ」を作成して家庭での学びの充実を図っています。

○放課後などを利用して定着度の低い学習内容や基礎学力の向上を図っています。

北斗市内中学校 各教科の平均正答率(%) 3年生436名

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B	4教科計
北斗市	77.6	69.0	65.6	47.1	259.3
全道	75.1	65.0	61.8	43.3	245.2
全国	75.6	66.5	62.2	44.1	248.4
全道差	2.5	4.0	3.8	3.8	14.1
全国差	2.0	2.5	3.4	3.0	10.9

中学校

教科に関する調査
《平均正答率》

○チャレンジテストの結果を分析し、苦手な領域に重点をおいた宿題や長期休業中の学習プリントの作成に活用しています。
○根拠をもとに説明したり、考えを伝えあったりする言語活動を積極的に取り入れた授業を行っています。
○各担当で数値目標を設定し、学期ごとの検証と改善策を立て、目標達成に向けた取組を推進しています。

小学校D校

○中学校では、全ての教科で下位層が全国を下回り、さらに平均点では全国を上回り、目標を達成しています。

○国語Aでは「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域全てで、全国を上回っています。

○国語Bでは、「話すこと・聞くこと」、「読むこと」の領域で全国を上回っています。「書くこと」の領域で全国を下回っています。

○数学Aでは「数と式」、「図形」、「関数」、「資料の活用」の領域全てで全国を上回っています。

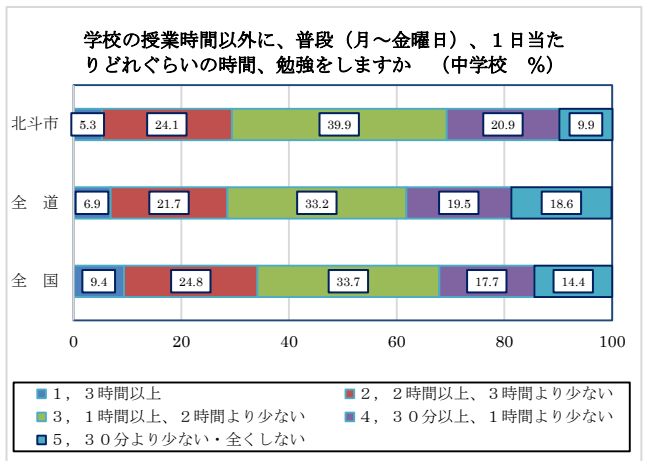
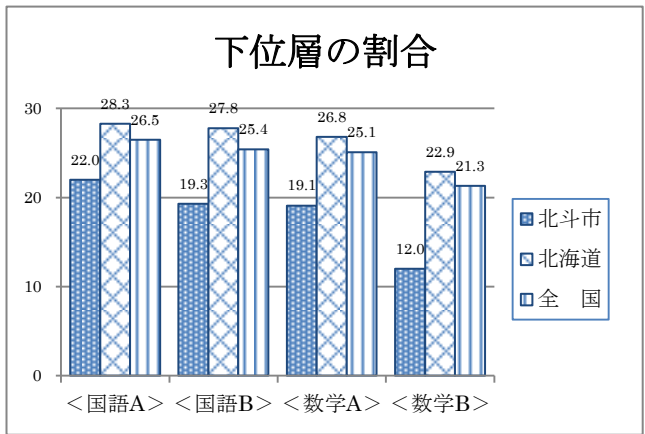
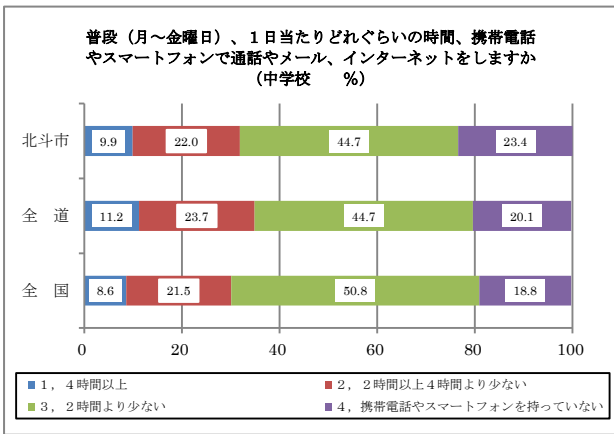
○数学Bでは、「数と式」、「関数」、「資料の活用」の領域で全国を上回っています。「図形」の領域で全国を下回っています。

《下位層の状況》

○全ての教科で下位層の割合が全国を下回っています。

《無解答率の状況》

○全教科93設問中、2問(数学Bで2問)で全国の無解答率を上回っています。その他の全ての設問で無解答率が全国を下回っています。子どもたちは最後まであきらめずに一生懸命に問題に取り組みまうとされています。



生徒に対する質問紙調査

○普段(月～金)携帯電話やスマートフォンで、通話やメール、インターネットを二時間以上している生徒の割合が全道より下回っています。全国を上回っています。
○平日に一日当たりの勉強時間は、一時間以上勉強している生徒の割合が全道・全国を上回っています。

中学校3校の平均正答率(%)

	国語 A	国語 B	数学 A	数学 B
A	77.4	67.9	67.6	48.4
B	79.6	74.9	67.3	49.0
C	73.6	59.0	59.8	42.1

学力向上の取組

中学校A校

○学校改善プランを月毎に確認し検証するとともに、朝・放課後学習や補充学習等で学力の向上を図っています。

○校内研修と連動した授業改善に取り組み、チャレンジテストの活用や学習規律の徹底を図っています。

○生活リズムチェックシートの活用やスマホ等の利用制限週間の取組、懇談会での啓発等で望ましい使い方や家庭学習習慣の確立に取り組んでいます。

中学校B校

○校区の小学校・家庭・地域と連携した生活習慣や学習習慣スタンダ

ードを設定し、中一ギャップの解消と家庭学習習慣の定着を図っています。

○数学で習熟度別少人数学習により、生徒が分かる、できる授業づくりに努め、下位層を減少させ、意欲を高める授業改善を図っています。

○昼休みや放課後に基礎的内容や発展的内容の補充学習を実施し学力の向上を図っています。

中学校C校

○数値目標を掲げ、下位層の縮減や授業改善を図るための校内研修の充実に努めています。

○校区の小学校・家庭・地域と連携し、「家庭学習強調週間」を設定したり、生活リズムチェックシートを活用したりして、家庭学習習慣の意識化と定着化を図っています。

○放課後学習日やテスト前の補充学習会等を実施し、確かな学力と自ら学ぶ習慣の定着を図っています。

保護者の皆さまへ

学校のよきと取組

○北斗市では、中学校区で小・中を9年間の学びの連続性と捉え、「学習のきまり」や家庭学習の取組など、小学校と中学校で連携した取組を推進しています。

子どものよき

○小学生、中学生ともに「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と思いませんか」という質問に対し、「どんなことがあってもいけないことだ」と答えている割合(小学生 市91.3% 国83.1%、中学生 市82.3% 国74.8%)が全道・全国を大幅に上回っています。より一層、子どもたちの心を耕す取組が期待されます。

○平日の勉強時間の確保や計画を立てて勉強する割合が多いことなどから家庭学習の習慣が身に付きつつあるといえます。

家庭へのお願い

○普段(月々金)、一日あたり携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間については、26年度から徐々に減少しています。が、中学生が一日4時間以上している割合が依然、全国を上回っています。また、普段(月々金)、一日あたりテレビやビデオ・DVDを見たり聞いたりする時間が3時間をこえる児童・生徒の割合が全道・全国を上回っています。

○学校では、ノーゲームデーや「生活リズムチェックシート」の活用、ネットトラブル防止のための取組など、子どもたちの生活改善に向け、取り組んでいます。また、昨年度から、北斗市

PTA連合会では、「携帯・スマホに関するトラブルから子どもたちを守りましょう!」という啓発ポスターを全家庭に配布して、家庭でのルールづくりを推進しています。ご家庭におかれましては、今一度お子さんの家庭生活での過ごし方やゲームやスマホ利用について見直しをお願いいたします。